

脱原発に背を向ける橋下市長

大飯原発再稼働の

流れをつくる

やむを得ない



6月29日 首相官邸前を埋めつくし「原発再稼働反対」を訴える20万人 (主催者発表) ©しんぶん赤旗

「原発再稼働反対」「原発ゼロ」の声が首相官邸や関電本社を包囲しています。野田首相が5月末に「私の責任で判断する」と原発再稼働に踏み込みますが、そのきっかけを作ったのが5月19日の関西広域連合での橋下市長の「期間限定再稼働」提案でした。橋下市長は、3月16日の定例会見で原発稼働は「やむを得ない」と発言していました。

3月16日 定例記者会見 「稼働はやむを得ない」と橋下市長

「(電力が) 本当に足りないのにね、それを原理主義のように絶対に原発もう止めるんだとはそれはやっぱ言えないですよ、(中略) 本当に足りないんだったらね、その一定の限定期間で必要最小限の台数をやっぱり稼働するのも、それはやむを得ないっていうふうにみんな思ってるわけですね。」

暴走 聞く耳持たず

●「パブコメ(市民の声を)読んでいない」

橋下市長が始めた「市政改革プラン」(案)へのパブリックコメント。2万通(94%が反対意見)の意見が寄せられたのに、「読んでいない」(6月22日市議会)、「文句を言いたい人だけが言う仕組み。賛成する人はわざわざ出してくない。市民も暇じゃない」(6月23日維新政治塾)とまで言い切ります。



● 演劇・集会 パレードでも「懲戒免職」 ～こんな条例は憲法違反!

ゴミ収集の民営化について「市民の皆さんと築いてきましたセーフティネットが危ぶまれます」と、環境局職員の労働組合がビラで訴えたところ、橋下市長は「懲戒処分の対象になる」(7月11日市会答弁)と述べています。労働組合の当たり前の活動を規制する条例案が市会に出されています。どんな組織や企業でもイエスマンだけでは未来がありません。橋下市長は憲法を守り、市民の声に耳を傾けるべきです。

